

会 議 記 録

名 称	中央区基本構想審議会（第4回）	
開催年月日	平成28年10月11日（火）18:30～20:20	
場 所	中央区役所本庁舎8階 大会議室	
出 席 者	委 員	竹内誠（会長）、市川宏雄（職務代理）、和気康太、金井利之、伊藤香織、榊原美樹、押田まり子、石田英朗、磯野忠、田中広一、志村孝美、渡部博年、青木かの、杉原慶一、鹿島新吾、古屋勝彦、中野耕佑、小林高光、三田芳裕、松岡肇、三田富貴子、市川尚一、大辻正高、山本泰人、岩田享也、大北恭子、中山華子、梶原寸真子、松本紗智、今井健、齊藤進、吉田不曇、島田勝敏
	幹 事	平林治樹（企画部長）、田中武（総務部長）、長嶋育夫（区民部長）、黒川眞（福祉保健部長）、望月秀彦（環境土木部長）、田村嘉一（都市整備部長）、林秀哉（防災危機管理室長）、古田島幹雄（高齢者施策推進室長）、中橋猛（中央区保健所長）、高橋和義（教育委員会事務局次長）、濱田徹（企画財政課長）、御卿誠（企画部副参事（都心再生・計画担当））、園田典子（広報課長）、吉原利明（総務課長）
配布資料	中央区基本構想審議会（第4回）次第 中央区基本構想審議会委員名簿 中央区基本構想審議会（第4回）座席表 資料1 中央区基本構想等に関する答申中間のまとめ（案）概要 資料2 中央区基本構想審議会専門部会報告（概要） 資料3 中央区基本構想等に関する答申中間のまとめ（案） 資料4 パブリックコメントの実施について 資料5 今後のスケジュール	
議事の概要	1 開会 2 議題 （1）中央区基本構想等に関する答申中間のまとめ（案）について （2）パブリックコメントの実施について （3）今後のスケジュールについて （4）その他 3 閉会	

1 開会

出席者及び配布資料の確認。

2 議題

(1) 中央区基本構想等に関する答申中間のまとめ(案)について

起草委員会市川委員長から、資料1「中央区基本構想等に関する答申中間のまとめ(案)概要」、資料2「中央区基本構想審議会専門部会報告(概要)」、資料3「中央区基本構想等に関する答申中間のまとめ(案)」に基づき、起草委員会における審議経過及び取りまとめの考え方を報告。

竹内会長 本日は、報告いただいた「中央区基本構想等に関する答申中間のまとめ(案)」について、皆さまから意見をいただき、その上で(案)を外して「中間のまとめ」として取りまとめたいと考えている。報告内容について意見等をいただきたい。

市川(尚)委員 前回も申し上げたが、資料3の48ページの「世界に発信する魅力的なまちづくり」の項目の中に銀座の記載がないので、修正していただきたい。

市川起草委員会委員長 前回の審議会でも意見をいただいたが反映されていないので、銀座の記載について提案したい。「特に、名橋「日本橋」周辺」の「特に、」の後に、「新しい文化や都市機能を取り入れながら、商業のまちとして美しいまちなみを形成する銀座の魅力を一層高めるとともに」と入れ、その後、「名橋「日本橋」周辺では、日本橋川の景観整備を再開発と併せて行い、歴史の継承と新たなにぎわいを生み出すまちを目指します。また、築地市場」と続けるのはいかがか。

市川(尚)委員 そのようにしていただきたい。

青木委員 6ページの「2 基本構想の役割と理念」において、「中央区に住み・働き・訪れるすべての人々や団体が連携し、」とある。「住み」は区民、「働き」が在勤者、「訪れる」は観光客ということになると思う。しかし、その次の行において、「区と区民のまちづくりの憲章であり」とあり、この「区」は行政のここのように読み取れる。そのため、「中央区に住み・働き・訪れるすべての人々や団体が連携し、」と「区と区民のまちづくりの憲章」が少し合わない印象を持った。

もう1点が33ページにおいて、「まちの課題を自ら解決することができる地域の力が重要です。」「都心コミュニティを構築していかなければなりません。」と記載のある部分についてである。新しいコミュニティの構築は中央区の大きな課題だと思うが、ここに「町会・自治会」という言葉が入っていない。55ページには「町会・自治会」という言葉が含まれているが、33ページにおいて「町会・自治会」という言葉を入れなかった理由があれば教えていただきたい。

市川起草委員会委員長 6ページの「区と区民のまちづくりの憲章である」の主語は、「この基本構想は」である。間に2行半の形容詞が入り、「この基本構想は区と区民のまちづくりの憲章である。」と言っている。基本構想は区と区民がつくるものであり、もちろん「働き・訪れる」人はいるが、あくまで「区と区民のまちづくりの憲章」であると考えている。

2点目の、33ページの「多様な主体との協働」に細かく記載をすることについてであるが、これはここで書かなくとも、どこかで書いてあると思う。基本構想の文章ではあまり細かいことは言わずに、一言で分かるようにしておき、基本計画で詳しく書くというパターンを取っている。「多様な主体」が何を指しているのかは、基本計画に盛り込むべき施策の方向で詳しく書いてあるため、ここでは書かないものと理解している。

青木委員 特に中央区の場合は新住民の方が増えており、新しいコミュニティという意味で、あえて「町会・自治会」を入れずに大きく捉えるという考え方で、記載がないこと

には賛成である。

大辻委員 「将来像の実現に向けた基本的な方向性」の5番目の「プロアクティブ」はあまり聞かない言い方だが、都市計画における論文があるのか教えていただきたい。

市川総務委員会委員長 「プロアクティブ・コミュニティ」とは今回初めて作った言葉であり、論文に載っているものではない。パブリックコメントも含め、さまざまな意見を伺い、分かりにくいとなったらどうするかという議論も考えて、まずは大胆に出してみた。プロアクティブは単なるアクティブではなく、「自ら決める」という意味があり、世界の流行になっている。

大辻委員 前向きということか。

市川総務委員会委員長 前向きに方向を決めていくという意味合いがあるため、使ってみるのはいかがかと思い提示している。

山本委員 アメリカのポートランドでは民間の自治コミュニティが多くあり、行政だけに頼らずに、公共の役割を民間の人たちが担っているユニットが発達していると聞き、見に行ったことがある。それを考えた時に、プロアクティブという言葉の意味が伝わるかは別にして、このような考え方はこれからあっても良いと感じる。例えば日本の場合には交通問題には交通安全協議会、警察は警察懇話会といった民間の団体がある。これは行政を民間の力でサポートしながらより大きな成果に結びつけようということのように思われ、元々日本の社会は、民間が行政を支える自発的な意欲を持ったまちという感じがする。しかし、まちのことになると、行政と民間の境目があるような気がする。その意味では、一体になって民間と共に考えていく仕組みやあり方は今後さらに進んでも良く、重点を高く置くべきという感じがした。

また、資料1の20ページの「江戸以来の歴史に裏打ちされた伝統文化を育みながら豊かな未来を創造し」の「豊かな未来」が引っかかる。「豊かな社会」という言葉はよく使われるものであり、中央区スタイルという独特性からすると、表現が平板に感じる。前段の「江戸以来の歴史に裏打ちされた」という部分に独特性が表れているのかもしれないが、もう少し中央区スタイルらしいカラーがにじんだ言葉の方が、独特性があって良いのではないかと感じた。

竹内会長 将来像に「輝く未来へ橋をかける」とあるので、「豊かな未来」の代わりに「輝く未来」と直せば良いのではないかと。

山本委員 そのようにしていただきたい。

志村委員 資料3の28ページの下から4、5行目で、「平成14年」、「平成27年」とあるが、20年間で元号が変わる可能性がある。他のページでは括弧書きで西暦が記載されているため、「平成14（2002）年」、「平成27（2015）年」とし、57ページの「昭和63年」も「昭和63（1988）年」と、元号と西暦を併記する形で統一した方が良いと思う。

それから50ページの上から6行目に「2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会」とあるが、他のページはすべて「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」と書いてある。統一した方が良いのではないかと。

また、築地市場の移転の問題に関しては先行きが不透明な中で、資料1の10ページでは「築地市場跡地など」や資料3の5ページでは「また、長きにわたり東京の食を支えてきた築地市場が80年もの歴史に幕を閉じることとなり、その跡地の活用を含め」、48ページでは「築地市場移転後の築地においては」、49ページでは「築地地区については、市場移転後も」とあり、移転を既成事実化している。1月23日の第5回審議会までに小池都知事がどのような判断をするかにより内容が違おうと思うが、パブリックコメントを出す際に区民の方たちの意見がこの問題に集中してしまう可能性がある。築地市場の問題はもちろん大事だが、これらの表現については修正や削除をするなどある程度整理し、工夫をした上でパブリックコメントをかける

ことが必要だと思う。

竹内会長 脱字や表現の整合性に関してはご指摘いただいた部分を見返し、直すべきところは直す。

築地市場の移転の問題に関しては、パブリックコメントの際に「市場移転後」や「幕を閉じました」と記載してしまうと、一方的に世論を誘導するのではないかと言われたいとも限らない。ぎりぎりまで状況を見ながら、やっていくより仕方がないという気はする。

市川起草委員会委員長 築地市場移転は、石原都知事の時に決定しており、行政的には移転が決まっている。そのため、移転を前提に考えるしかないという意識である。前の知事が決めたことがひっくり返るのであれば、それは大幅な変換であるために変えれば良い。行政的に決まったことに従ったほうが良いのではないと思う。

竹内会長 仮に決まっていたとしても、現実には議論が込み入っており、私はもう少し表現を緩めた方が良いと思う。パブリックコメントでは、区民は色々な見方をする。決定事項だとしても、今変えようとしているという論調もあり、移転を前提とするとしても、一方的に既定路線としてさまざまなところで提示することは余分な誤解を生む気もする。

市川起草委員会委員長 今後の展開次第であるが、現況は移転するとして基本構想の答申に向けた審議を行っているため、リアクションはあっても良い。

竹内会長 少しケースは異なるが、墨田区で基本構想を策定した際には東京スカイツリーが建設されるかの瀬戸際であり、基本構想に入れるかどうかの話はあった。

市川起草委員会委員長 スカイツリーの件はその当時はまだ決まっていなかった。今回は決まっていることである。

竹内会長 スカイツリーに関しては、結局は直前で決まったため、最後に一言記載をした。決まっているからと言って、多くの箇所で言及していくことには少し懸念がある。

市川起草委員会委員長 答申は2月に行う予定だが、その時点では移転はしていないと思う。しかし現状では移転が決定しており、変更があるとは言えない。

竹内会長 変更があるという言い方はしない。移転が決定しているということをあまり出しすぎると心配だということである。

吉田委員 区としては、基本的には市川起草委員会委員長のご意見に賛成であるが、基本構想の中で言及しすぎているという竹内会長の指摘も当然であると思う。築地市場の表現については、竹内会長と市川起草委員会委員長と相談させていただきたい。イメージとしては、築地市場移転に関しては触れないということか。

竹内会長 築地市場移転には触れても良く、触れていない方が不自然である。現状では言及している箇所が多いため、必要ない部分では言及せずに、路線として決まっている部分については記載をしていくという意見である。

吉田委員 1度お預かりさせていただき、適切な表現に修正する。

磯野委員 地元は元々、築地市場移転には反対の立場で動いていた。しかし、話がここまで進んできており、築地のまちを考えた際に、移転後の跡地がどうなるのかは非常に大きな問題である。今は微妙な展開ではあるが、移転後を見据えたまちづくりについては謳い込んでいただきたいと思います。ただ、ニュアンスに関してはうまく調整していただくのが良いと思う。

松本委員 資料3の8ページの「(3) 誰もがあこがれ、住みたい・働きたい都心の実現」の文章を読んでも「あこがれ」に結びつく内容が見当たらないと思うため、「あこがれ」がどこから出てきているのか説明いただきたい。

また、18ページの「3 社会経済環境の変化に応じた行政サービスの提供」において、「今後増加が見込まれる一人暮らし高齢者への対応など」と、1つ具体例が出

ているが、この１点のみ具体例を提示していることに特別な意味合いがあるかを教えていただきたい。

最後に、52ページの「(2) 豊かな学びにあふれ健やかな体を育むまち」の「①子どもたちの可能性が開花する教育の推進」、「②希望に満ち、次代を担う子どもの育成」については小学生以上の未成年を想定して、学校と家庭に関して書いていると思うが、学校が終わった後の放課後も大切だと思う。乳幼児期に関しては、共働き家庭にフォーカスしてまとめていると思うが、小学校になっても共働き家庭はあり、今後そのような家庭は増えていくと思う。そのため、放課後の子どもの居場所についても触れていただいた方がよい。他の部分で記載があるのならば示していただきたいと思う。記載がないのであれば、何らかの意図があるのかを聞かせいただければと思う。

市川総草委員会委員長 「(3) 誰もがあこがれ、住みたい・働きたい都心の実現」の「あこがれ」に関しては、「さまざまな違いを超えて相互に理解し合える地域社会の中で、健やかで安心できる多様な暮らしや働き方をサポートし、住む人・働く人ともに心から愛着を持ち、快適で暮らしやすい」のすべてが「あこがれ」である。「あこがれ」という言葉を文章内に入れるのであれば、「暮らしやすいあこがれの都心」といった記載になると思う。この部分については文章をもう一度見て、「あこがれ」がどの部分かを示すということで良いか。

松本委員 「あこがれ」という言葉を必ず入れる必要があるのか疑問に思った。これは必ず入れたいという意図があって入れているのか。例えば他の箇所では「誰もがいきいきと」といった書きぶりがあった。あこがれられることを方向性に含むことに私は違和感があるが、皆様は特に違和感はないのか。

市川総草委員会委員長 資料１の13ページで基本的な方向性を５つに分けて提示しているが、全編を通して、「中央区ならでは」、「少し上にある」という気持ちが強く流れているため、「あこがれ」という表現になった。「いきいき」という表現はどこにでもあり、平凡な形では「誰もがいきいきと、住みたい・働きたい都心」という表現があるが、それでは１歩踏み出していないという気持ちからこの言葉が入っている。「住みたい・働きたい」と思うのであれば「あこがれ」だろうという流れから来ている言葉であり、どれかに対してあこがれということではない。行くのなら中央区という意味を入れたということから「あこがれ」と表現している。そのため、場合によっては文章中に「あこがれ」という言葉を入れても構わないと思っている。今の意見は「あこがれ」という言葉がいけないということか、文章中のどの部分が「あこがれ」と聞いているのかによって対応が異なる。

松本委員 「あこがれ」にこだわりがあるわけではない。「人が集まる粋なまち」はフィットする感じがするが、「あこがれ」と書かれると、皆が自然と集まるのではなく、意図して集まってもらうような印象を受けてしまう。そのため、他の言葉の方が良いのではないかと感じた。

市川総草委員会委員長 「粋なまち」は江戸時代以来の伝統にあふれたというところから来ており、「あこがれ」はこれからの、未来へ向かっている言葉と理解している。ニュアンスの問題はあるが、そのくらい良いのではないかと。もう１度提案するが、あまり遠慮しなくとも良い気がする。

「３ 社会経済環境の変化に応じた行政サービスの提供」の「一人暮らし高齢者」の具体例については、先程言った、基本構想は包括的に解釈するという方向からすると、細かすぎると指摘するため、検討したいと思う。

３点目に関しては、行政側が面倒を見る範囲として学童保育があるが、そこから先は、具体的に教育という分野では行政は面倒を見ていない。ご指摘の部分は、行

- 政が面倒を見ていないということに対してか、それとも行政でもここに記載されている以外のことがあるということをおっしゃっているのかによって対応が変わる。
- 松本委員 学童保育のことをもう少し書いていただいた方が良いと思った。「①子どもたちの可能性が開花する教育の推進」は学校に関する部分であるため、学童保育の記載は難しいと思うが、「②希望に満ち、次代を担う子どもの育成」については「(ア) 家庭の教育力の向上」とあるため、その部分で放課後等を想定して書いているのかと感じた。放課後等についても含んでいるのであれば、もう少し分かりやすくなるよう工夫していただければと思う。
- 市川総草委員会委員長 記載する場所は考えるが、学校の時間だけではなく、放課後の教育もあるということを入れるということで良いか。
- 島田委員 36ページの「子どもが心身ともに大きく成長する学齢期には」の部分で子どもの社会性を育くむための交流の場や保育所等保育施設の整備など、共働き世帯の学齢期の子どもの居場所について記載している。
- 松本委員 こちらは後半が主に小学生以上の子どものフォーカスされていると思った。重複する印象が強いのであれば仕方ないが、もう少し盛り込んでいただけると良い。イメージとしては、手厚く見ていただいているという印象を受ける。
- 吉田委員 趣旨は理解した。現実の問題として、児童館の学童保育については量的に限界があるため、放課後の居場所づくりとして学校内でプレディという形で取り組んでいる。学校教育の中で、プレディという形で取り組んでいることを含めて、プレディと児童館を融合させている流れの中で手厚い記載が必要とのことかと思う。その点については行政がある程度手を伸ばさなくてはいけない部分もあると思うため、書き加えようと思う。
- 榊原委員 先ほどの松本委員の意見に関連して、私も起草委員会の時に、「あこがれ」という言葉はあまり使わない方が良いのではないかと、という意見を申し上げた。あこがれとは、外から「中央区はいいな」と見る視点である。それはもちろん必要な要素であるが、住んでいる人からすると、安心して暮らせる、学童や保育園にちゃんと入れるといった、安心という視点が欲しいところかと思う。住んでいる人のことを考えるのであれば、「あこがれ」という表現は少し違和感が出てくるかと思う。
- また、中央区の将来像に関しては、「橋をかける」や「いきいき」といった表現は非常に良いと思う。しかし、人が集まるということについては、中央区は魅力があり、利便性も高いため自然に人は集まり、人口推計的にも今後倍になるほどの勢いで集まることは分かっている。その中で、集まってきた人がそこで快適に暮らしたり働いたりできるのが重要である。最近の保育園の議論では、「都心に住む方が悪い」といった意見が出る中で、「集まってきたのは自己責任」とならないようにと感じた。この将来像は、粋なまちであれば人が集まってくると言っているが、そこで人がどのような状況であるのかといった、人視点で書いていただけるとうれしく思う。
- 竹内会長 粋とは、他者への思いやりの行動や身なりのことであり、つまり他人が不愉快に思わないということである。したがって粋なまちとは、人が集まり、人に対して受け入れる雰囲気がある思いやりのまちである。だからこそ皆が住みやすく、働きやすい。「集まる」という表現は不明瞭な部分もあるが、粋なまちが別個に存在しているという意味ではなく、集まった人への思いやりが含まれている。
- 市川総草委員会委員長 「あこがれ」は特にこだわるわけではないので、候補があれば今後表現を考える。
- 今井委員 資料1の17ページに「4 未来を切り拓く力を育む『創造の場』の構築」とある。この元となっているのが資料2の躍動部会報告概要における「2 豊かな学びにあふれ健やかな体を育むまち」であると思う。「2 豊かな学びにあふれ健やかな体を

育むまち」においては、現況の課題として、グローバル化が進む今後は、特に子どもたちは心技体のバランスのとれた教育が必要であり、また年齢に関わらず、生涯学習によって何歳の方でも自分の未来を切り拓く力や、そのための基礎的な体力等を増強させてほしいという論点が整理されて記載されており素晴らしいと思う。しかし、資料1の「4 未来を切り拓く力を育む『創造の場』の構築」という言葉と説明文を見ると、家庭の教育や、生涯学習、スポーツについての記載がやや欠けていると感じた。そのため、論点をバランスよく配置すると伝わりやすくなるかと思った。

市川総草委員会委員長 おっしゃるとおりである。この部分以外にもあると思うが、バランス良く記載すれば良いと思う。

三田(芳)委員 「中央区スタイル」は非常に良いネーミングである。日本が超成熟社会、人口減少社会となっている状況において、中央区は人口が増え、高齢者人口も増えるが、高齢化率は日本全体の半分ほどである。また、15歳以下の若年層の割合も非常に多く、特殊な地域になると思う。そのことを「中央区スタイル」にいかに関係しているかが重要である。超成熟社会となった日本において、経済活動としてもグローバル化やIT化等の動きもある中でいかに発展していくかは難しい問題である。高齢者割合が低く、子どもが多くなる中央区においては、子どもたちをいかに育てるかが非常に大事だと思う。その点を明確に謳い込む必要があるのではないか。

また、町会、自治会が機能しなくなっている。その中で、小学校、保育園、幼稚園をコミュニティの中心とし、さまざまな意味で社会の中で子どもを育て教育していく場という役割をもう少し見直していただきたい。昔は1つの家庭の中に3世代が同居していたが、その繋がりを学校が担えていない。例えばプレディの後の晩御飯をどうするのかといった時に、料理が好きで比較的年齢が高く、旦那さんが仕事を離れてのんびりしているようなお母さん方に料理を手伝ってもらいながら、さまざまな昔の話なども聞きつつ、ご両親の仕事が終わった後に一緒に晩御飯を食べてもらえば良い。このような、大先輩に相談し、話ができるような3世代家族の役割を町会、自治会が担うことが難しくなっている状況で、学校が担えないものか。教職員の方のサポートにより、学校を中心とした少し大きめのコミュニティが活性化できるのではないか。

高齢者は地域の孫、地域の子どもとして、働いている方々も地域の親としてさまざまなケアができないかというところで、学校が果たす役割は非常に大きいと思う。中央区スタイルとして、増えていく子どもたちをいかに世の中に役立つような、中央区なり東京なり日本のリーダーに育てて行くかを考える責任もある気もする。

山本委員 資料1の9ページにおける「新旧住民間の」という言葉は、新住民と旧住民という仕訳を奨励しているようである。新旧住民が融合することは非常に重要なため、もう少し適切な、反発を受けないような表現にしてはどうか。

竹内会長 考慮する。言い忘れたことや、後で気が付いたことは事務局へお寄せいただければと思う。

最後に取りまとめを行った起草委員会の委員の方一言ずついただきたい。

和気委員 これからは健康と福祉がベースとなって、人が集まり、さまざまなものが生まれるということだと思う。特に福祉は安心、安全がベースとなるため、このまちで生活することに不安がないことが大事かと思った。その意味では、今回の基本構想には1つの線が提示されていると思うため、これを受けて、さらに良い福祉系の計画ができてくるのではと思う。

1点気になった部分がある。資料1の9ページにおいて、『自助』『共助』を中心とした地域ぐるみの防災力・防犯力の向上」とあるが、防災や防犯は共助という

よりは地域住民がお互いに助け合う互助が重要である。

金井委員

基本構想、基本計画を考える際に難しいことは、区民の方がどのような言葉でどのようなイメージを捉えるのかということである。今日の委員の方々のご意見も大変「なるほど」と思いながら聞いており、パブリックコメントにおいても、どのような意見が出るのか大変関心がある。区民の方の感覚が、区民の総意としての基本構想、基本計画にとって非常に重要かと思うため、区民の方からさまざまな意見がさらに集まると良いと思う。

その意味ではリアクションを得るために、築地市場の移転についてわざと言及する方が、皆も関心を持って意見を言ってくれるのではと考えたが、築地市場の話ばかりになってしまうと他の言葉が出てこなくなり、困る気もする。数字では表せない感覚的なものが出てきてうまい落としどころが出てくると良いと思う。

伊藤委員

各部会で議論したことを、基本的な方向性として5つ挙げた。部会では安心・快適・躍動と分かれていたが、すべてが関連してくるものであるため、どの面からも取り組んでいかなくてはいけないということで意見を言わせていただいたつもりでいる。私はハード面の都市計画が専門であるが、まちをハードとして作っていくにも人が必要であり、福祉と都市計画は無関係ではない。そのような点も入れることができたということが、それが資料2「中央区基本構想審議会専門部会報告（概要）」で、各方向性の色が混ざっている部分に表れていると思う。

部会においては、区民委員の意識が非常に高いことに感心した。自分たちに関係のある基本構想、これからの自分たちの生活のベースとなる基本構想だと思っていただけのものに仕上がれば良いと思う。

竹内会長

本日、皆様から出されたご意見を踏まえ、「中間のまとめ」として取りまとめ、パブリックコメントを実施したいと考えている。本日もいただいたご意見の反映については、起草委員会の市川委員長と私で検討し、その結果を踏まえて内容の修正をした上で（案）を外し、「中間のまとめ」としたいと考えている。委員の皆様にはパブリックコメントの実施前に対応を取りまとめた資料をお送りしたいと考えている。また、ご意見等がある場合には、次回の第5回審議会でご発言いただくことも可能である。これを前提として、私に一任していただきたい。

（一同異議なし）

竹内会長

そのように取り扱わせていただく。

（2）パブリックコメントの実施について

事務局から、資料4「パブリックコメントの実施について」を説明。

（3）今後のスケジュールについて

事務局から、資料5「今後のスケジュール」を説明。

（4）その他

質疑等なし。

3 閉会

竹内会長の閉会宣言により終了。